

令和3年度 和歌山大学教職大学院 運営協議会議事録

日時 令和4年3月23日(水) 13:20~15:20

会場 和歌山大学東3号館(教育学部 本館 南棟5階) 502室

出席者 ◆外部委員

和歌山県教育委員会 川瀧秀則 学校教育局長
大阪体育大学 岸田正幸 教授
新宮市立三輪崎小学校 嶋田雅昭 校長

◆本学教職員

和歌山大学大学院教育学研究科 研究科長	本山 貢
(同) 教職開発専攻 専攻長・スペシャリストコース長	寺川剛央
(同) 教職開発専攻 学校改善マネジメントコース長/副学長	添田久美子
(同) 教職開発専攻 特別支援教育コース長	武田鉄郎
(同) 教職開発専攻 授業実践力向上コース長	豊田充崇

◆陪席

和歌山大学学務課 学部支援室 教育学部分室 専門職員 西川晴義

欠席者 和歌山市教育委員会 東 康修 学校教育部長
和歌山市立高松小学校 島本和昌 校長

議 事

本山研究科長の挨拶に引き続き、外部委員及び本学教職員の自己紹介があり、寺川教職開発専攻長の司会の下、議事進行が行われた。

■教職大学院からの報告

①2021年度の運営体制について

- ・寺川専攻長から資料に基づき報告があった。
- ・今後は学部教員も関わっていくようにしたい。

②本年度の入試状況について

- ・寺川専攻長から資料に基づき報告があった。
- ・今年度は一次試験で16名合格、二次試験で6名合格、三次試験で2名合格の合計24名合格であった。
- ・SNコースで1名、Tコースで1名、合計2名の辞退者がいた、辞退の理由は教員を辞職するためと他の大学、おそらく地元の大学に合格したため。

③教員採用試験の結果について

- ・寺川専攻長から資料に基づき報告があった。
- ・豊田副専攻長から12名の修了生のうち8名が合格しているとの補足説明があった。

④現職派遣教員修了生の教育現場での状況等について

[寺川専攻長からの報告]

- ・各自現場に戻って順調に勤務している。

⑤「修了研究」の取り組みについて

- ・寺川専攻長から、配付資料に基づき説明があった。
- ・現職の院生については2年目に現場に戻りながらの執筆はとても大変だった、現場に戻って学修の成果を還元してもらえればと考える。
- ・添田副学長から、この3月に卒業する学生は入学時から新型コロナウイルスの影響により登校禁止など大きな負担をかけていたとの発言があった。

⑥特色ある取り組みについて

[ブレンディッドラーニングによる教員研修履修証明プログラム]

- ・寺川専攻長からの概要説明に続き、豊田副専攻長から、配付資料及びパワーポイントに基づき説明があった。
- ・第3期までで延べ100名の教員に参加いただいた。
- ・岸田委員から、教職員支援機構（NITS）のプラットフォームとの絡みでどれの中に入れられるか、研修の中で不足しているものを補うことを考えていけたらとの発言があった。それに対して添田副学長から、プラットフォームに乗せると対面式の全国区になるという課題があり、本学の体制的に見合わせているとの発言があった。

[小規模校実習]

- ・寺川専攻長からの概要説明に続き、豊田副専攻長から、配付資料及びパワーポイントに基づき説明があった。
- ・岸田委員から、小規模校活性化支援事業はへき地実習とは異なるのかの質問があり、寺川専攻長から、時期を変えており、低学年対象のインターンシップ的なものであるとの回答があった。

⑦授業評価アンケートの結果について

- ・豊田副専攻長から、パワーポイントに基づきアンケート結果について報告があった。
- ・豊田副専攻長から、おおむね肯定的意見が多い、協働性が発揮できるかという設問への評価が低いのは新型コロナウイルスの影響でオンラインでの対応が多かったからではないかとの発言があった。

⑧2021年度修了時アンケート調査について

- ・寺川専攻長から、配付資料に基づき説明があった。
- ・添田副学部長から、このアンケートは本学が掲げているディプロマ・ポリシーをどれだけ身に着けることができたかを確認するために設けているとの発言があった。
- ・スペシャリストコースについては人数が少ないため統計的に優位か疑問。
- ・現職教員とストレートの学生が同じ授業を受ける制度について、創意工夫をしながら取り組んでいる。

⑨2022年度の運営体制等について

- ・寺川専攻長から、配付資料に基づき説明があった。

- ・MコースとSコースを一本化し、初任者研修プログラムのアフターフォローを実施する。

⑩その他

- ・第5回教師力高度化フォーラムの発表について、オンデマンドでの実施となった。

(4) 質疑応答／協議

[大阪体育大学 岸田正幸 委員からのコメント]

- ・授業アンケートや卒業生アンケートについて、分析・改善をしているので、あまり気にしすぎなくてもよいのではないか、ストレートの学生と現職教員向けのディプロマ・ポリシーを変更してもよいのでは。 →添田副学長：設置時には分けていたが、ディプロマ・ポリシーは学位に対しての質保証に関して、別なのはどうかとの指摘があった。

[新宮市立三輪崎小学校 嶋田雅昭 委員からのコメント]

- ・遠隔地への教育に対する配慮を感じている。
- ・オンラインでは通じない部分があり、Face to Face も大事であると考える。
- ・教職大学院に入学した教員が ICT を活用し、同じコースの学生と交流している姿を見た。

[和歌山県教育委員会 川崑秀則 委員からのコメント]

- ・ブレンディッドラーニングの試みは面白い。
- ・教職大学院への派遣希望者は自分から積極的に手を挙げるのは難しいか、1回では埋まらない。

(5) 閉会挨拶

寺川研究科長から挨拶があり、閉会となった。